

「8 かけ化」する社会と秋田の県道「廃止」

朝日新聞

【スマートシュリンク検討区間の選定基準】

県管理3305km

- ①現状で沿道人口ゼロ
- ②将来の人口が9割以上減る
- ③冬季閉鎖区間など

検討470km

- Q. 病院や行政施設へのアクセス
- Q. 迂回路などの有無
- Q. 一定の交通量(500台/1日)



スマートシュリンク335km

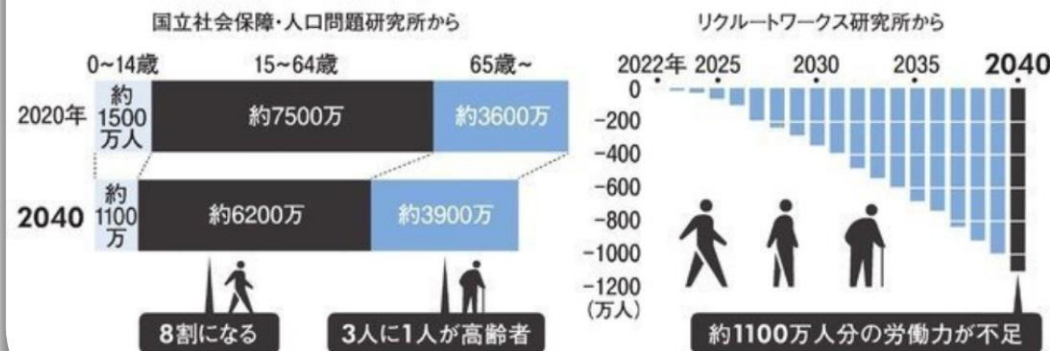
※他135kmは現状維持

- A 維持管理レベル見直し or 廃止を検討 = 181km
- B 冬季の維持管理レベルを検討 = 154km

秋田県の県道「廃止」の流れ		国などの人口減少をめぐる動き
県が議会で表明	2025年2月	
県道維持管理の勉強会の予算化		
知事選で鈴木氏が初当選	4月	
	6月	出生数(国内の日本人)が70万人を割る
		人口減前提にした地方創生2.0の基本構想
勉強会①	10月	人口戦略会議が未来を選択する会議へ
		高市首相が所信演説で「日本最大の課題」
	11月	政府が人口戦略本部を初めて設置
勉強会②	12月	
勉強会③	2026年3月	
県議会へ報告、地元から反発	6月	町村会が「賢く縮む」シンポジウム
→今年度、関係市町村と調整へ	7月	知事会が「スマートシュリンク」を議論

< 8 かけ社会の問題意識 >

2040年、現役世代は2割減



- 2040年に生じる事態から逆算して今何をすべきか
- 全体が縮む時代、ヒトや予算を投じても限界がある
- 今、将来、そして次世代の暮らしを考える
- ただし、正解は誰も知らない→ヒントを共に探る

朝日新聞「8 かけ社会」特集ページ



人口増加なのに縮小？～茨城県守谷市の事例から考える～

朝日新聞

■人口ビジョン・第2期総合戦略＝2022年3月策定

- つくばエクスプレス開通や大規模な区画整理事業などにもなう住宅・マンションの集中的な供給増加で人口増加基調が続き、20年間で1.3倍に増えている。
- 出生数が死亡数を上回る「自然増」の状態が継続している。合計特殊出生率は2018年の1.52がピーク。2020年は1.41と横ばい傾向にある。
- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）の推計では、守谷市の人口は2030（令和12）年まで増加傾向にあるが、その後は減少に転じる。
- 市独自の推計では、2055（令和37）年までは年少人口・生産年齢人口が減少しつつも老年人口が増加する。その後は「全世代で人口が減る段階」へ移行する。



■松丸修久市長の施政方針演説（2026年3月市議会）＝概要

守谷市は、我が国が直面している深刻な少子高齢化・人口減少の現実を直視し、未来に向かって、持続可能な自治体運営の確立に向けて、今のうちから準備を進めなければなりません。令和8年度は、人口減少等を前提とした自治体運営という考えのもと、「ダウンサイジング・イノベーション」「スマート・シュリンク」を強力に推進してまいります。これは、単なる縮小を意味するものではなく、DX（デジタルトランスフォーメーション）を最大限に活用し、行政機能の効率化と最適化を図り、地域社会全体の質的向上を目指す、前向きな変革です。将来にわたり、守谷市が活力を失わず、市民の皆様が安心して暮らせるまちであり続けるために、私たちはこの新たな挑戦に、全庁一丸となって取り組み、持続可能な未来への道を切り拓いてまいります。

